

多言語スタッフ30名に“免疫力アップの食材”について聞いてみました!

NIC情報サービスコーナーでは、日本語、英語のほか7言語の多言語スタッフが交代で、通訳や翻訳業務を行っています。来館や電話、メールなどで、外国人市民から寄せられる問い合わせに役所などの公的機関の言語サポーターとして活動しています。またNICの事業や、名古屋市からのお知らせを翻訳しています。最近では新型コロナウイルス関連の通訳・翻訳が増えています。大切な情報をわかりやすく、迅速に、外国人市民へ届くように努めています。

さて今回、多国籍のスタッフ30名に、新型コロナウイルスや風邪に負けないよう、免疫力を高めるために何を食べているかを聞いてみました。各国の気候や食文化の中で育った特色ある食材がいろいろと上がりました。例えば南米では、トウモロコシの粉をお湯で溶いてどろどろにして食べると元気になるそうです。日本のお粥に似ていますね。またコーラにしょうがを加えて温めて飲むと良いなど、一度チャレンジしてみたい面白いレシピもありました。バランスよくいろいろな食材を摂り、免疫力を上げ、健やかに過ごしましょう。

多言語による情報提供相談窓口		月	火	水	木	金	土	日
日本語	休館日	9:00 ~ 19:00						
英語		●	●	●	●	●	●	●
ポルトガル語		●	●	●	●	●	●	●
スペイン語		●	●	●	●	●	●	●
中国語		●	●	●	●	●	●	●
ハングル		●	●	●	●	●	●	●
フィリピン語		●	●	●	●	●	●	●
ベトナム語	●	●	●	●	●	●	●	
ネパール語	●	●	●	●	●	●	●	
●...10:00~12:00, 13:00~17:00								
◆...13:00~17:00		☎052-581-0100						

世界ランキング

多言語スタッフ30名のアンケート結果

- ニンニク**
 - しょうが**
 - 肉** (鶏、豚、牛、羊)
- 肉料理に、ニンニク、しょうがを使えば最強ですね!?

他にもその国ならではのものが、免疫力アップの食材としてあがりました。

- 中国**: なつめ、芋、大根
- 韓国**: キムチ、梅シロップ、高麗人参
- ベトナム**: カカオ、柑橘類
- フィリピン**: オートミール、ゴーヤ
- ネパール**: カレースパイス
- ブラジル**: ミント、オレンジ、ヨーグルト
- エクアドル**: 調理用バナナ、パクチー、マンゴー
- ベルギー**: キヌア、マカ

漢方にも使われています。サムゲタンを作る時などに使います。

ポリフェノールが豊富。温かい飲み物にして摂ります。

スープにしたり焼いたりチップスにしたり、つぶしてコロケ風にも。

世界のレシピ

～みんなで作ってみよう!～

フェイジョン コン アロス

フェイジョン コン アロス(Feijão com arroz)はブラジル家庭料理です。ご飯とフェイジョンは、日本のご飯とみそ汁のような関係です。昼食や夕食として食べ、家庭によっては毎日食べます。豆とごはんの組み合わせは栄養満点で、子どもの成長に必要な栄養素もたくさん含まれています。力仕事で体力をつけたい人にも欠かせない料理です。栄養面、味ともに素晴らしい料理です。ぜひお試しください。



NIC多言語スタッフ
飯塚 清美さん
(ブラジル出身)

「フェイジョンに水を足せば大丈夫!」
急な来客にも歓迎の気持ちを伝えるブラジルの決まり文句です。それほど、フェイジョンはいつも家庭にある身近な料理なのです。

作り方

- 豆を洗って、一晩たっぷりの水につけておく。浮いた豆はすてる。
 - 玉ねぎとニンニクをみじん切りにして、オリーブオイルを入れたフライパンで、炒める。しんなりして、少しキャラメル色になったら、火を消す。
 - ①の豆、水、ローリエと赤唐辛子を鍋に入れる。豆が指でつぶれるくらい柔らかくなるまで煮る。
 - 煮えた豆をおたまで1~2杯取り、②へ入れる。豆をつぶしながら炒める。ペースト状になったら、③の鍋に入れ、塩、ブラックペッパー (お好みでうま味調味料、醤油)を入れて約15分ぐらい煮込む。とろみが出たら、出来上がり。
- *残ったフェイジョンは、ニンジン、ジャガイモ、ケールなど冷蔵庫の残り野菜を入れ、水を足して煮込んでスープにしても、美味しいです。



ご飯にかけて、肉や野菜サラダと一緒に盛り付けて食べるのが定番です

材料 5~6人分

- ブラジル豆(フェイジョン・カリオカ) ※日本のうすら豆でも代用OK 2カップ
- 玉ねぎ (大) 1/2個
- ニンニク 3~4かけ
- オリーブオイル 大さじ3~4
- 水 4カップ
- ローリエ 1~2枚
- 赤唐辛子 1本
- 塩 小さじ2~3
- ブラックペッパー 少々
- うま味調味料 少々(お好みで)
- 醤油 少々(お好みで)

隔月刊「ニック・ニュース」 No.400 令和2年10月1日発行
発行・編集 公益財団法人 名古屋国際センター

本事業は名古屋市の指定福祉事業です。

〒450-0001 名古屋市中区東区厚田一丁目47-1 名古屋国際センタービル内 TEL 052-581-0100 FAX 052-581-4673
E-mail: info@nic-nagoya.or.jp URL: http://www.nic-nagoya.or.jp

NIC NEWS

愛称はニック(NIC)です
Nagoya International Center



特集 コロナ禍と外国人



ニック・ニュースは 創刊400号 を迎えました!

これからもよろしくおねがいします。

- 特集 P1~P4
- NICあれこれ探検隊 P5
- ぶらりライブラリー この一冊から P5
- NICレポート P6
- グローバルに活躍する若者たち P6
- Leader's Eye セイブ・イラクチルレン・名古屋 P7
- ともくら アヌシマ ジャハさん(ネパール) P7
- 国際留学生会館から シュテファニ・ブライトマイヤさん(ドイツ) P8
- 姉妹友好都市の広場 姉妹友好都市LINEスタンプを作りました! P8
- NIC PAGE P9-P10
- 多言語スタッフに聞いてみました! 発表中
- 世界のレシピ「フェイジョン コン アロス」

情報満載
https://www.nic-nagoya.or.jp/

各種お問い合わせは、
3階情報カウンターまでどうぞ。
☎(052)581-0100

● 情報サービスコーナー、ライブラリー ●
火~日曜日9:00~19:00(月曜休館)
● 貸し施設 ●
月~日曜日9:00~21:00(予約受付は9:00~17:30)
名古屋国際センターへは、地下鉄桜通線
「国際センター」駅下車が便利です。

コロナ禍と外国人

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの日常生活の“当たり前”を大きく変えてしまいました。

日本に住む293万人の外国人たちは、どのような影響を受けているのでしょうか。母語で情報をすぐに得にくく、また外国籍であることや在留資格により支援の対象から外れることもある彼らは、日本での暮らしに大きな不安を抱えています。

今号は、新型コロナウイルス感染症により、外国人が受けている影響とそれを支援するためのNICはじめ地域の取り組みをお伝えします。

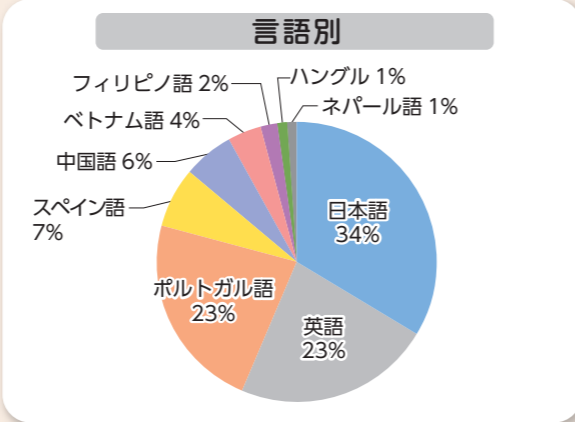
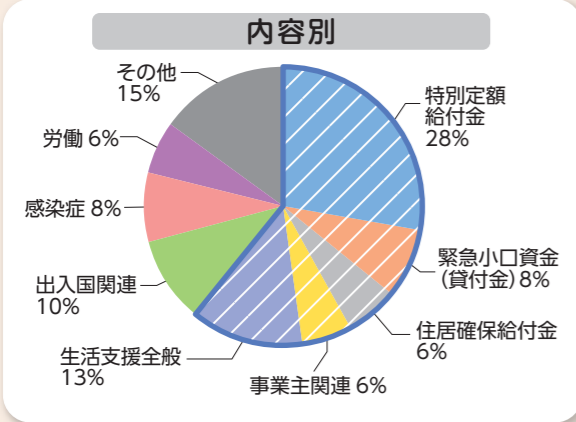
浮き彫りになった課題

今年2月からNICに寄せられた新型コロナウイルス感染症に関する問い合わせ・相談は、8月末で1,079件にも及びます。当初は、航空機の欠航や入国制限による出入国に関する相談、感染症についての多言語情報を求める日本語教室ボランティアや在外外国公館などからの問い合わせが数件ある程度でした。

しかし、4月に入ってからは、「アルバイトを解雇され、家賃が払えない」、「10万円をもらえると聞いたが、外国人でももらえるのか」など生活困窮についての相談が多く寄せられるようになりました。さらに、再び感染が拡大し始めた7月後半からは、「感染したかもしれない。帰国者・接解者相談セン

ターに電話したいが日本語がわからない」、「検査を受けて陽性だった。自宅待機しているが、体調が非常に悪い」など感染症に関する相談が増えています。政府や自治体などの緊急経済支援についての問い合わせ（「内容別」円グラフ斜線部分）は全相談件数の約6割を占め、さらにおよそ3件に1件が特別定額給付金に関する内容でした。

しかしながら、日本語を十分理解できない外国人にとっては、自ら情報を収集し、こうした支援に行きつくのは極めて困難です。また申請書類の記入や必要書類の準備を、彼らが自力で行う苦勞は想像を超えるものがあります。



外国人からNICに寄せられた声

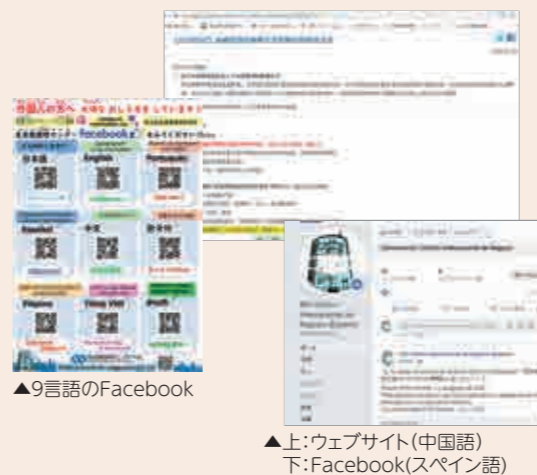
- ・短期滞中で日本にいるフィリピン人の妻の母が、コロナで帰国できなくなった。持病の薬がなくなりつつあるが、健康保険が無い。どうしたらいいか？
- ・英会話教室を営んでいる。緊急事態宣言が出たので、閉鎖するべきか？少人数のクラスだけ継続するのはまずいのか？
- ・自営業を営んでいる。コロナで収入が減った。どこへ行っても外国人だからとローンが断られる。
- ・日本語が話せず、母語でしか会話ができない叔父がふさぎ気味。体調も崩して病院に行ったが、特に異常はないと言われた。精神的なものだと思う。
- ・一時帰国した姉が日本に戻れずベレーで出産。日本に戻りたいが、子どもの在留資格はどうなるのか？



NICの取り組み

情報発信

NICでは、ウェブサイト、SNS、館内掲示等を通じて、9言語(日本語、英語、ポルトガル語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ネパール語)による情報をできるだけ速やかに発信しています。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、手指消毒や「3つの密に対する注意」などの感染予防、健康相談などの各種窓口、特別定額給付金をはじめ国や自治体の支援策などについて70もの情報を「やさしい日本語」と多言語で外国人に向けて提供してきました。1月からの新型コロナウイルス感染症に関するウェブサイト情報には、これまでに約2万3千件(8月末現在)のアクセス数がありました。

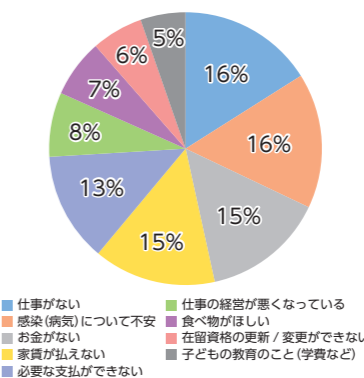


新型コロナウイルス関連「外国人緊急相談会」

感染症拡大の影響で生活が苦しくなった外国人の相談に、ワンストップで応じる緊急相談会を6月28日と7月11日に開催しました。両日合わせて18か国約80名の方が相談に訪れました。関係機関・団体や通訳者の協力を得て、特別定額給付金申請手続きのサポートのほか、在留資格、労働、緊急小口資金、住居確保給付金、教育、生活全般についてそれぞれブースを設け、112件の相談に応じました。「会社を解雇された」、「税金、保険、学費、家賃などの支払いができない」など、生活困窮に関する相談が多く寄せられました。

また、実施にあたり、NIC登録ボランティア総勢600名に協力を求めたところ、感染の不安があるにもかかわらず80名の方から活動への申し出をいただきました。

相談者へのアンケートより「今、困っていることは何ですか?」



協力機関・団体
名古屋出入国在留管理局
愛知労働局
愛知県行政書士会
名古屋市社会福祉協議会
名古屋市健康福祉局
NPO外国人ヘルプライン東海
NPOまなびや@KYUBAN

国や自治体の対応

国や自治体も、「やさしい日本語」と多言語による情報発信やさまざまな支援策を講じるなどの対応をしています。

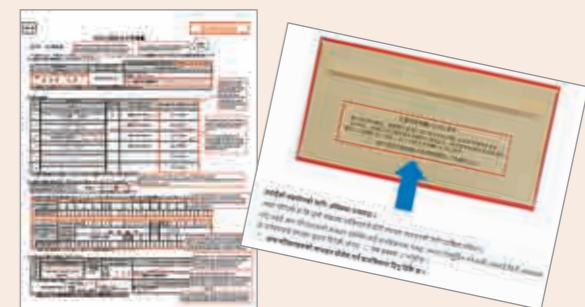
厚生労働省は、感染症対策や労働者向けの情報などを、多言語で発信しています。たとえば、休業補償や雇用保険、解雇について、外国人であることを理由に不当に扱われることはなく、日本人と同等に保護されていることなどを伝えています。



出入国在留管理庁は、渡航制限などで帰国できない外国人に対して、在留資格の変更を認めることで就労(アルバイト)ができるようになり、特別定額給付金などの支援策が受けられるようにしたりするなど、外国人の状況を踏まえた対応をしています。また、新型コロナウイルス感染症の影響により解雇された技能実習生を対象に、再就職ができるよう、在留資格の変更や希望する特定産業分野の企業とのマッチング支援も行っています。さらに、母国に一時帰国し、日本に再入国

ができなくなった永住者に対しては、再入国許可の有効期限を延長するなどしています。

名古屋市は、1月末に新型コロナウイルスが原因と考えられる肺炎が多く発生していることを日本語、英語、中国語で発信し、注意を促しています。その後、手洗い、咳エチケット等の感染予防の徹底を呼びかけました。さらに特別定額給付金申請の質問に答えるコールセンターを設置し、9言語で対応しました。また、申請書類封筒には、多言語で記載し、「重要な書類」が入っていることを知らせました。



▲特別定額給付金申請書の書き方(ポルトガル語)と返信用封筒の注意書き(ネパール語)

※円グラフの構成比は、小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません。

さまざまな支援

人々のつながりを築く ～ NPOまなびや@KYUBAN

港区にある九番団地にはおよそ300世帯もの外国人が暮らしています。NPOまなびや@KYUBAN(名古屋市港区)は、ここで2か月に一度、住民に対し健康チェックを行っていました。感染が拡大する4月、健康チェックに代えて食料配布とアンケート調査を始めました。どこに困っている人がいるか、どんなことに困っているかを把握し、さらに支援を求める人には、詳しく聞き取り、解決策と一緒に考えました。卵や食料を渡す際には、農林水産省の「花いっぱいプロジェクト」*の一輪のカーネーションを添えました。食料を受け取りに来る人たちに「恥ずかしい」という気持ちにさせず、尊厳を守りながら必要な支援を届ける、こうした配慮により今では日本人高齢者や外国人など約60名が毎回来るようになり、お互い顔見知りになりました。

また4月中旬には、団地内に困りごとを書いて投函できるポストを設置し、たとえば「マスクがない」という声に応え、玄関のドア越しにマスクを届けました。あわせて、集会場に掲示板を設け、国の支援策や相談窓口のほか、近所のスーパーの営業状況などの、有益な情報

を張り出したところ、情報を求めて掲示板を見に来る人が増えています。

このほか、休業要請により、厳しい状況を強いられた団地周辺の飲食店を1軒1軒回り、持続化給付金などの事業者向け支援策を伝え、申請のサポートをしました。外国人だけで経営する飲食店では、こうした支援策を知らず、申請できなかったところがたくさんあります。代表の川口祐有子さんは「こんな時だからこそ、人と人とのつながりを築き、信頼関係を強め、支え合わなければならない。そうしたつながりにより、強くなやかな地域を住民とともに育てていきたい」と話します。

*花いっぱいプロジェクト：
新型コロナウイルスの影響で需要が減少している花きの消費拡大を図るために農林水産省が実施したプロジェクト



NPOまなびや@KYUBANが、5月下旬から1か月ほど開催した特別定額給付金申請書の記入方法と生活についての相談会に、NICも協力しました。フィリピン人の女性は、自宅に届いた国民年金の振込用紙を持って、「これは何か」と相談にやってきました。書類の内容を一通り説明した後、本人宛に送ら

れてきたものではないことに気がきました。どうやら前の住居者宛に届いたものだったようです。その場は大笑いして終わったのですが、カタカナが読めない、他人の名前が書かれていることにすら気づけないという現実を目の当たりにしました。



対 等な立場で楽しく過ごせる居場所を ～ 徳林寺

徳林寺(名古屋市天白区)は、新型コロナウイルス感染症の影響で飛行機が飛ばず、帰国できなくなったベトナム人を受け入れています。多い時で50名を超える人たちが寝食を共にしています。在東海ベトナム人協会(名古屋市名東区)が、仕事や住む場所を失い困っている在留ベトナム人たちをSNSで集め、同協会からの依頼に快く応じた徳林寺での受け入れが実現しました。不安な日々を過ごす彼らの精神的なケアも大切で、週に1回のボランティア医師と看護師による健康チェックは、ストレスの軽減に大きな役割を果たしています。

住職の高岡秀暢さんは、ネパールに15年ほど滞在した経験があり、今でもネパールとの交流が続いています。その縁で、30年ほど前から、難民申請中の人や仏教を学ぶ留学生、日本人のホームレスなどに対して、居場所として「みんなの家」を開放してきました。「みんなの家」は誰にでも開かれた場所で、地域の人々や教会、ボランティアグ

ループ、NPOなどと多様なつながりが生まれています。

「お世話する、支援するというだけではなく、ここに来たら誰でも対等な立場。一緒にいることが楽しい。大切なのは『今いる場所を楽しくする』ということ。いろいろな企画をしていざろ縁が生まれる。彼らがいい縁を作ってくれた。私が彼らを助けたのではなく、彼らに助けられているのです」と高岡住職は話します。お寺を中心に、さまざまな人が集い、交流し、助け合う。無事に帰国した後も彼らはきっと徳林寺での生活を忘れることはないでしょう。



命をつなぐために ～ カトリック南山教会

カトリック南山教会(名古屋市昭和区)には、仕事やアルバイトが無くなり、深刻な生活困窮に陥った人々から多くの相談が寄せられました。「とにかく彼らの命をつなげなければ」と、南医療生活協同組合(本部:名古屋市緑区)などの協力により集まった食料を箱に詰めて届ける活動を始めました。

Facebookで呼びかけたところ、ベトナム人を中心に、日系ブラジル人、タイ人、インドネシア人など多くの人から支援を求める声が上がりました。1つの箱の中には、米5kg、砂糖1kg、調理油1ℓ、カップラーメンなどどれも平等に

るように同じものを詰めていきます。そして最後に、相手の名前を見て、ベトナム人であれば、ベトナムの調味料を、それ以外の国の方には、他の調味料を追加します。顔は見えませんが、相手を想い気持ちを込めて作業を続けました。これまでに1,000人以上に食料を届けました。

活動の中心人物である同教会ベトナム人司祭のグエン タン ヒ神父は、「困っている人を助けるのに理由はありません。私たちが送っているものは、たいしたものではありません。でも、支援に協力してくれた人たちの心も一緒に箱に詰めて届けています」と静かに語ります。今後も感染の状況を見て、臨機応変に困っている人への支援を続けていく予定です。



向 き合う ～ THIRD PLACE

飲食業で働くネパール人留学生たちが、休業要請により仕事が減り、生活に困り始めた4月末ごろ、三田村幸雄さんが経営するレストラン「THIRD PLACE」(名古屋市中区)では、ランチの無料提供に踏み切りました。土日には店の前での炊き出しも始め、国籍問わず、来る



人みんなにネパール料理を振る舞いました。食べるものに困った日本人も含め50名ほどが料理を受け取りました。寄贈してもらった食材をそのまま配れば、調理のための光熱費はかかりません。しかしそうしなかったのは、日本での生活が長くないネパール人留学生たちに、日本の食材をそのまま配ってもあまり役に立ててもらえないということを知っていたから。また、本当に必要なものしか受け取れないという彼らのプライドを尊重するた

めにも、彼らに受け取ってもらえるように集まった食材を調理して配ることにしました。

三田村さんは、彼らに日本で働く上で求められる、時間を守ることや身体を清潔に保つことなどをきちんと伝えることが必要だと考えています。彼らが損をしないように、共同生活の中でそうした習慣を身に付け、日本での生活をよりよいものにできるよう、寮を運営しています。時には厳しく注意することもあります。アルバイト先の店長や就職先の上司の信頼を失わないように、心を鬼にして嫌われ役を買って出ます。給付金などの申請を手伝いながら、もらったお金のすぐに使わず、いざという時のために貯めておくことも口うるさく伝えました。ネパール人留学生たちとことごとく向き合い、彼らのいい面も悪い面もよく知る三田村さんは、「彼らの中では、何か悪いことをしている人に対して『三田村さんに言うよ!』が決まり文句になっているようです」と笑います。

労働者としての権利を学ぶ ～ Aichi Migrants Workers

感染症拡大の影響を受け、外国人の雇用環境は悪化しています。ロサーナ タピルさん(フィリピン出身)は、労働者を保護するための法律や制度を知らないまま、弱い立場で働く外国人労働者のために、6月末、「Aichi Migrants Workers=AMW」を立ち上げました。有給休暇や労災のことを知らず、雇用主に言われるがまま、立き寝入りした人をたくさん見てきました。そんな人たちに代わり、労働基準監督署や派遣会社に掛け合ったり、労働法に詳しいメンバーから、労働者の権利を学ぶオリエンテーションを開催したりしています。AMWに相談を寄せる人たちは、フィリピンを中心に、中国やパキスタン、ブラジルなど国籍もさまざまです。

実は、ロサーナさん自身もコロナ禍で解雇にあい、求職活動のためハローワークに通っています。自身が大変な状況にもかかわらず、そこで出会った外国人たちに、国や自治体の支援策について積極的に伝えたり、悩みを聞いたりしています。彼女を突き動かしているのは、

フィリピンの「Bayanihan(バヤニハン)=助け合い」精神と、自分自身が来日後に日本語や法律の壁にぶつかった経験です。苦労をしたからこそ困っている人の気持ちがわかる、勉強して得た日本語能力と法律の知識を人のために役に立てたい、と強く思っているからです。

「日本に暮らす多くの外国人が悩んでいる。仕事が減り、大変な生活を強いられているから。でも私たちの一番大きな悩みは、収入が減ると母国に離れて暮らす家族を助けられないこと。心配でたまらない」自身が苦しい生活の中でも、なおも家族を思い、助けられないことに苦悩する彼女たちの現実がありました。



連携へ ～ あいち新型コロナ関連情報共有グループ(AICO-19)

4月末、愛知県内の外国人への感染症の影響について情報交換するため、愛知県や名古屋市、県内の外国人支援団体によるオンライン会議が行われ、NICも参加しました。会議後は参加団体とSNSを通じて、国や自治体、各地域の動きを情報共有し、外国人に向けて最新の情報を提供できるよう努めています。参加団体から「〇〇団地で食料配布をしている団体を教えてください」、「〇〇の多言語翻訳はありますか?」などの問いかけに対し、情

報を持っている人たちがすぐに反応し、有意義な情報共有が実現しています。こうした支援団体同士のネットワークは、迅速に問題を解決するために必要不可欠なものです。今回、臨時的に発足したグループではありますが、今後も情報を効率的に共有し、外国人相談者の悩みがスムーズに解決できるよう、このつながりを大切にしていきたいものです。

新型コロナウイルス感染症の拡大に翻弄される外国人の存在と彼らを支援する取り組みをみてきました。今回の取材を通して、さまざまなことに気づきました。

- ▶ 同胞の人たちのために必要な情報の翻訳や、通訳、生活相談を行うなど、自発的な活動を続けていた外国人たちがいる。
- ▶ 支援を通してさまざまな人たちの間でつながりが生まれている。
- ▶ SNSを利用する留学生はじめ外国人が多く、SNSの活用により情報が拡散されやすい。
- ▶ 「やさしい日本語」や多言語による情報を頻繁に発信したが、重要な情報が確実に届いているかは把握できない。
- ▶ 不安やストレスを抱える人が多く、精神的なケアが必要である。
- ▶ 生活困窮や仕事による移動など、家庭の事情により子どもの教育を継続させることが難しくなる。

今後に向けて

国や自治体から出された情報に対して、複数か所で翻訳をする必要はなく、すでにあるものは共有し、ないものを手分けして作業すれば、より迅速に多くの情報が多言語化できます。そのためには情報をコーディネートする役割と仕組みづくりが必要です。そして、多言語化された情報が効率よく確実に必要としている人に届くよう、キーパーソンとなる外国人やコミュニティとのネットワークが欠かせません。

また、さまざまな支援を通して、外国人と支援者、困っている人同士、支援者同士などいろいろなつながりが生まれました。こうしたつながりを深めていくことで、それぞれの強みを活かし、相互に補い合いながら、問題解決に向けて取り組むことが求められます。こうした困難な状況下では、社会的接点の少ない外国人は孤立する傾向がありますが、誰一人取り残さない、孤立させないために、改めて今回浮き彫りになった課題に取り組んでいかなければならないと強く感じています。

日本で暮らす外国人たちが、コロナ収束後も日本に留まるのか、それとも見切りをつけて他の国へ移ってしまうのか、今後の対応にかかっています。

(2020年8月取材)

NIC あれこれ探検隊

このコーナーでは、日ごろあまりご紹介することがないNICの活動を取り上げます。



▲最新の2020年8月号

● 知っていますか？ 月刊英語情報誌「NAGOYA CALENDAR」の歴史

NICが発行している月刊英語情報誌「NAGOYA CALENDAR ナゴヤカレンダー」の8月号では戦後75年を記念して「Wartime in Nagoya 戦時下の名古屋」を特集し、市内の戦争遺跡や資料館などを紹介しています。

本誌は外国人に名古屋のタウン情報を紹介する英語の冊子としては最も古く、そのルーツは戦争と深い関わりがあります。前身は米国進駐軍が中区伏見(白川公園付近)に設置した将校用住宅が建つ「アメリカ村」で発行された機関誌で、その後、軍の移転に伴い1957年6月号から名古屋市内、そして1984年11月号からNICに引き継がれ今に至っています。

現在は、この地域のイベント情報や日本で生活する上で必要な生活情報をNICの英語圏職員が独自の視点で選び、わかりやすく編集し、多くの外国人の皆様にご愛読いただいています。



▲前身の機関誌「Air Defender」1952年10月6日号

▲NICのグランドオープン进行を告げる1984年10月号

最近では、生活の中であふれる実用的な日本語を勉強するきっかけとして「看板を読もう」というコーナーを毎回掲載しています。7月号では、新型コロナウイルスに関連した記事も載せました。

Read the Signs: Keep your distance
看板を読もう「間隔をあけて」
Signs calling for us to observe 'social distancing' are now everywhere. Here are some expressions you might see on signs when entering a shopping center, for example.

Key expressions
間隔をあけて *kankaku wo akete* (keep distance; make space [between ~ and ~])
離れる *hanareru* (to move away; to become distant)

エスカレーター、エレベーター等も間隔をあけてご利用ください。
レジは間隔をあけてお並びください。

エレベーター *erobētā* (elevator)
等 *nado* (etcetera; and so on)
ご利用 *go-riyō* (use [by you, by customers. Formal])
ください *kudasai* (please)

レジ *reji* (cash register; checkout)
お並び *o-narabi* (line up; make a line [Formal])
並ぶ *narabu*: to line up

ナゴヤカレンダーはポルトガル語と中国語でもウェブサイトからのダウンロード版として発行しています。語学学習のきっかけにもどうぞ。

こちらから→



NIC レポート

オンラインで再開した NIC日本語教室から

新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年3月、それまで対面で行っていた大人・子ども・高校生向けの3つの日本語教室をやむなく休止することになりました。休止を学習者に伝えるときには、「学習を続けたかった」、「次はいつ始まるの」と再開を望む声がたくさん寄せられました。

本来であれば5月から教室が始まるはずでしたが、緊急事態宣言を受けて開講を見合わせることに。そんな中、少しでも日本語学習の機会を作ろうと、指導するボランティアの協力のもと、6月から手探りでオンライン教室を始めました。オンラインで日本語を教えるのは初めてのボランティアもたくさんいましたが、皆でZoom(ズーム)の事前練習会を行い、本番に備えました。



▲NIC日本語の会のオンラインによる授業の様子

オンライン教室初日、学習者もボランティアもNICの担当者も慣れない操作に戸惑い。接続の不具合も続出。それでも「久しぶりに日本語を話せた」、「安心してマスクを外して、相手の表情を見ながら話してきた」と日本語を話し、交流できる喜びに、たくさん笑顔があふれていました。

9月からの教室は、対面で実施していますが、今回発見したオンライン教室の良さを今後の教室活動に活かしていきたいと思っています。

書き損じはがきのご寄付をいただきました



下記団体より、NICが事務局を務める「世界寺子屋運動」名古屋実行委員会へ、書き損じはがき等のご寄付をいただきました。ご協力いただきました皆様に深く御礼申し上げます。

日本労働組合総連合会愛知県連合会(連合愛知)



▲連合愛知・佐々木龍也会長(右)からの贈呈

- ・はがき19,459枚(約91万円相当)
- ・金券類(約18万円相当)

日本郵便株式会社

- 愛知県内の各地区連絡会
(名古屋市南部・名古屋市北部・名古屋中部・西尾張・中尾張・知多・西三河・東三河)
- ・はがき82,906枚(約390万円相当)
 - ・切手6,237枚(約26万円相当)
- ※今年度贈呈式は実施しませんでした。

書き損じはがきキャンペーンにつきましては、こちらのQRコードからご覧ください。



ぶらり ライブラリー

特に目的があるわけではないけれど、ぶらっと来てみたら、気になることに出会える場所。このコーナーではNICライブラリーについてご紹介します。
NICライブラリー 名古屋国際センタービル3階 9:00~19:00 月曜休館

この一冊から

【國井 修 著 世界最強組織のつくり方 —感染症と闘うグローバルファンドの挑戦—】

NICライブラリーではアフターコロナ、ニューノーマルな生き方を見出す糸口、あるいはヒントとなる図書を配架しています。今回は、その中の一冊をご紹介します。

「世界エイズ・結核・マラリア対策基金(通称グローバルファンド、本部：ジュネーブ、1990年設立)」は、低・中所得国の三大疾病(エイズ・結核・マラリア)対策のために資金を提供する重要な国際機関の1つです。本書は数少ない日本人職員で



今回ご紹介した本

クイズ Q なぜ「コロナウイルス」といわれるのか。

同基金の戦略局長として働く医師、國井氏によるものです。アフリカを初め、保健医療制度の脆弱な貧しい国々で現在も多くの感染症の流行が続く中、そこに新型コロナウイルスの感染が加わると、更に深刻な事態を招くことは想像に難くありません。

グローバルファンドは、低・中所得国が新型コロナウイルス感染症に対応するために、最大10億ドルの資金を用意し、支援を強化しています。

世界では三大感染症だけで年間2億人以上が感染し、新型コロナウイルスのみと比べ、桁違いの数字です。それにもかかわらずコロナにばかり関心が向けられていることに國井氏は複雑な思いを抱きつつも、世界最強といえる組織の使命を「数字の向こうにある現場のこと、人々の幸せを考えながら、成果の最大化のために全力を注ぐこと(本書218頁)」と話します。

かつて経験したことのないパンデミックな現在。あらゆる感染症との闘いへの挑戦は今後も続きます。

現在、ライブラリーの利用にあたり、入口で、マスクの着用、手指の消毒、検温、連絡先の記入をお願いし、滞在時間を30分以内とさせていただきます。ご協力をお願いします。

グローバルに活躍する 若者たち

「大変な時だからこそ行動する」 コロナ禍でカンボジアへ手作りマスク・募金支援 名古屋経済大学市邨高校 社会科SDGs有志チーム

今年2月に開催した「グローバルユースデー2020」において、カンボジアでの活動について報告した市邨高校(名古屋市千種区)の最近の取り組みを紹介します。

世界中で新型コロナウイルスの感染が拡大を続ける中、同校のSDGs有志メンバーの生徒が、カンボジアへの手作りマスクの寄付と現地のNGOが配布する石鹸を購入するための募金を呼びかけました。中心となったのは、社会科の授業でSDGsについて学び、難民支援に取り組んできた2、3年生の生徒たちです。

名古屋市民のほか、ユネスコ文化交流を続けていた韓国水原外国語高校や台湾鳳山工商高校、県外の方から計2,837枚のマスクが届き、その送料と石鹸購入のための募金も7万円以上集まりました。

「活動当初は、国内でも感染拡大が続き、地域と連携したチャリティー活動は全て中止となりました。こうした中でも、何かできないかと考え、インターネットを活用して世界のNGOと在宅生徒とをZoom(ズーム)でつなぎ、生徒たちと「知る・考える」活動を行ってきました。そして、世界が大変な今こそ国を超えて助け合い、行動すべきだと考え、この活動を始めることに決めました」とこの活動をサポートする松野全教諭は語ってくれました。



メンバーからの声

「私自身、部活の大会がなくなってしまい残念な思いはしていますが、この取り組みを通じて自分よりも辛い思いをしている人が世界中にたくさんいることに気づき、力になりたいと思いました」(永田こころさん、写真左)
「これからも、困っている人のために、みんなで考えていきたいです」(プロジェクトリーダー 稲垣空良さん、写真中央)

現地からの活動報告ショートムービーが以下の会場(UANHCR WILL2 LIVE映画祭)で上映予定!

- ①2021年1月26日(火) 千種文化小劇場
- ②2021年2月12日(金) 名古屋経済大学 名駅キャンパス

※詳細は市邨高校ウェブサイトまで!



～国際協力・イラク編～

罪なき子どもたちを救いたい！

セイブ・イラクチルドレン・名古屋
代表 小野 万里子さん

リーダーズ・メッセージ

仲間との足し算で達成できる、かまえず挑戦しよう！



イラクの子どもの援助とイラク人医師の研修、薬剤・医療機材を支援する「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」の代表 小野万里子さんにお話を伺いました。

イラク戦争直前の2003年2月、現地を視察した際、癌を患うたくさんの子どもの出合いがありました。その原因は、湾岸戦争で使用された劣化ウランによるもので、再び戦争が始まれば被害がさらに拡大する状況でした。「多くの患者は、抗がん剤や放射線治療で助けられる。でも、国際社会の中で経済制裁にあるイラクでは、どちらも手に入らない。この現状を伝えてほしい」という現地の訴えから、帰国後すぐに同団体を設立しました。名古屋で支援金を募り、隣国ヨルダンの薬局を通して、抗がん剤を送る準備が整った矢先、3月に戦争が始まりました。そのため、支援金は抗がん剤ではなく戦傷者への医薬品へと変わりましたが、現地の病院とのつながりができ、翌年1月からは、県内の大学病院の協力を得て、イラクから招いた病児の治療と医師の研修の支援を始めました。研修以外に、医師による講演会や国際交流も積極的に行っています。今でも忘れられないのは、白血病を患うアップス君です。日本での治療の終盤、滞在の延長を

提案すると「イラク人だからイラクに帰るよ」と帰国し、その4か月後、急死してしまいました。イラクの医療進歩と両国の架け橋にと期待していただけに、私たちの落胆は大きく、活動をやめようとも思いましたが、医師からの激励で活動を続けています。現地では、骨髄移植ができる病院を造るために医師たちが奮闘していますが、造っては壊されの繰返しです。

日本で新型コロナウイルスの感染が広まった2月に、研修中の医師は緊急帰国しました。現在、イラクでも死者6,000人、感染者20万人と拡大しており、防護服等が足りず、治療にあっている多くの医師が亡くなっています。通常の活動ができないため、医師たちの命を守る防護服等の支援ができるよう7月から動き始めました。来日した医師のアテンドや講演会の運営等、現地に行かずとも日本でできることが多くあります。イラクの問題は数年では解決できません。これからの活動を次世代にも引き継いでいきたいです。

(2020年8月取材)



▲イラク人医師との交流会

セイブ・イラクチルドレン・名古屋
HP Facebook セイブ・イラクチルドレン・名古屋 検索

Ich freue mich, dich kennen zu lernen!
イヒ フロイェ ミヒ、 ディーヒ ケネン ツー レルネン
初めて！(ドイツ語)

国際留学生会館から

「1年間の留学生生活を振り返って」

名古屋市立大学経済学部交換留学生
シュテファニ プライトマイヤさん(ドイツ出身)



今回は、昨年9月から名古屋市立大学の交換留学生として国際留学生会館(以下「ISC」)に入居していたドイツ出身のシュテファニ プライトマイヤさんに1年間の留学生生活を振り返っていただきました。

私は着物や茶道などの日本の伝統文化、さらには現代のアニメやビデオなどの新しい文化に対しても深い関心がありました。1年間の交換留学の機会を通して、日本についてより深く学びたいと考え、留学を決意しました。

来日と同時にISCに入居し、さまざまな国籍や文化を持つ留学生と出会い、一緒にイベントなどに参加する中でたくさんの友人を作ることができました。一番印象に残ったイベントは昨年12月に行われた「餅つき大会」(港区女性団体連絡協議会主催)です。餅つきは日本の伝統文化のひとつとして有名ですが、現在では一般家庭で行

うことは少ないと聞いていたので、とても楽しみにしていました。留学生が交代で餅つきに挑戦したのですが、実際に自分が杵を持ってお餅をついてみると、予想以上にずっしりと重く、もち米をこねる人とのタイミングの取り方も難しかったです。それでも自分たちが伝統的な方法でお餅を作って、その場で食べられるということにやりがいを感じましたし、とても美味しく楽しく参加しました。

日常生活では、日本の皆さんはとても親切で思いやりのある方が多かったと思います。私の日本語はまだ十分ではないのですが、一生懸命コミュニケーションを取ろうとってくれたり、困ったことがあると優しく手を差し伸べてくれて、とても心強くて嬉しかったです。

次回日本に来る機会があれば、今以上に日本語を上達させて、より大勢の日本の方々とのコミュニケーションを取り、もっと多くの日本文化体験ができれば良いなと思っています。



▲ゆかたの着付けに挑戦(左端がシュテファニさん)



▲餅つき体験

国際留学生会館とは… NICが2001年から管理・運営している、名古屋市港区にある留学生専用の宿泊施設。居室90室のほか、研修室や和室、体育室などを備え、100名の留学生が生活できる。日本文化理解講座の開催や各種相談・情報提供、地域住民との交流などを行っている。

ともぐら

この地域で暮らす外国人にスポットを当てて、ご紹介するコーナーです。



時間をたいせつに！

アヌシュマ シャハさん
(ネパール出身)



ネパールの写真館で働いていた時に、来店した日本の観光客の丁寧な挨拶に感動して日本に興味を持ち、1年間日本語の勉強をしました。日本での生活に憧れて2007年来日し、名古屋市内の日本語学校で1年半日本語を勉強したあと、大学に入りました。大学4年の時に、結婚して、現在は子育てをしながら、夫が経営している貿易会社の手伝いとネパール人留学生の来日支援や生活支援をしています。

新型コロナウイルスの影響はとても大きいと実感しています。通訳をしているベトナムの友人は仕事なくなり、コンビニ、飲食店、ホテルなどで働いていたスリランカの友人たちも時短による収入減で、生活が大変だと嘆いていました。今は、最も悪かった3、4月に比べると、少し良くなってきているようです。

4歳と1歳の子どもがいますが、新型コロナウイルスの影響で、幼稚園が休園となったので、退屈させないように、お絵描き、英語の練習、ダンス、おもちゃなどで遊びながら、家で勉強させるのが大変でした。でも6月始めから、平日は幼稚園に行けるようになったので以前のような毎日に戻りました。

日本に来て気がついたのは、どこも街がとてもきれいということと、教育、医療のレベルが高く対応がいいということです。そして日本で学んだことは「マナー」です。例えばコロナで政府が生活の自粛を呼びかければ、人々はそれをきちんと守ります。また日本人には時間を守り、時間を大切にしている人が多いと思います。これは、生活していくうえで一番大切なことだと思うので、私たちが世話をしている留学生たちにもしつこいくらいに伝えています。

これから先のことはまだ決まっていますが、子どもたちが小学校を卒業するまでは日本にいて、夫の会社を大きくし、ネパール人留学生たちの就職探しに協力していきたいと思っています。

(2020年6月取材)



▲家族と

姉妹友好都市の広場

名古屋市は現在、ロサンゼルス市、メキシコ市、南京市、シドニー市、トリノ市およびランス市と姉妹友好都市提携を結んでいます。

姉妹友好都市LINEスタンプを作りました！

名古屋姉妹友好都市協会では、姉妹友好都市を広く知ってもらうために、SNSで高いシェアを誇るコミュニケーションツールであるLINEのスタンプを作製しました。新型コロナウイルスの影響で、自由に行き来ができない状況にありますが、スタンプを通して姉妹友好都市を身近に感じていただければと思います。

姉妹友好都市LINEスタンプのポイント

○令和2年度のスタンプ販売による収益金は、名古屋市の国際交流事業積立基金へ全額寄付され、国際交流活動に活用されます。

<LINEスタンプの一例>



名古屋姉妹友好都市協会の公式ウェブサイト・フェイスブックでは、姉妹友好都市にちなんだイベント情報などを発信しています。ぜひご覧ください。

Web http://nsca.gr.jp/ Facebook nagoya.sistercities 検索

姉妹友好都市LINEスタンプの内容

名古屋出身、旅好きなくまとグルメなねこが、姉妹友好都市を旅するスタンプです。各都市の名所や食べ物、有名なイベントなどを素材に、日常会話に可愛く添えることができます。

○スタンプ数：24個
○販売価格：120円(50コイン)



詳しくは、LINEのスタンプショップ「クリエイターズ」にて「世界を旅するくまとねこ(ゆるっと日常)」で検索、またはLINEの「ホーム」にて「名古屋姉妹友好都市協会」と検索してください！



新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けたイベント等の取り扱いについて

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からイベント等の日時、内容などを変更する場合があります。当センターのウェブサイトにて随時、最新の情報を掲載しますのでご確認ください。



●講演・セミナーなど●

**日本語ボランティア研修
～開かれた地域社会をめざして～**

第6回 お話を聞く会

新型コロナウイルス感染拡大により、各地域での日本語教室などもどのように運営していくのか、苦慮しています。新しい生活様式の中で、今までとは異なる視点で多文化共生について考えます。東海日本語ネットワークとの共催。

講師 新美 純子 氏
(公益社団法人 트레이ディングケア 代表理事)
日時 10月10日(土) 13:30~15:00
場所 ウェブ会議ツール「Zoom」で実施。
ウェブ環境のない方は名古屋国際センター5階第1会議室にてオンライン画面を視聴可。
対象 日本語ボランティアおよびその活動に興味のある方
定員 「Zoom」での参加:50人(申込先着)
NICでの参加:20人(申込先着)
費用 無料
申込 9月15日(火) 10:00~10月6日(火) 17:00
ウェブサイトおよびメールにて受付
問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5689 ✉vol@nic-nagoya.or.jp

**名古屋・シドニー
姉妹都市提携40周年記念事業**

名古屋市の姉妹都市であるシドニー市やオーストラリアについて、映画等の文化を通じて理解を深めます。

講師 坪井 篤史 氏 (シネマスコアレ副支配人)
日時 11月22日(日) 14:00~16:00
場所 名古屋国際センター 別棟ホール
対象 中学生以上 **定員** 50人(申込先着) **費用** 無料
申込 10月20日(火) 10:00~ウェブサイト、メール、電話および来館にて受付
問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

日本語ボランティアシンポジウム2020

「時間に余裕がない」、「新型コロナウイルス感染拡大の影響」などにより、日本語教室に通うことができない外国人住民がいます。そうした外国人に対して日本語ボランティアができることを先行事例の紹介をもとに考えます。東海日本語ネットワークとの共催。詳細はウェブサイトをご覧ください。

日時 12月5日(土) 13:30~16:00(予定)
場所 ウェブ会議ツール「Zoom」で実施。ウェブ環境のない方は名古屋国際センター別棟ホールにて、オンライン画面を視聴可。

対象 日本語学習支援活動に携わる方、関心のある方
定員 「Zoom」での参加:90名 / NICでの参加:30名(ともに申込先着)
費用 無料
申込 11月3日(火) 10:00~11月22日(日) 17:00
ウェブサイト、メールにて受付。

問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5689
✉seminar-vol@nic-nagoya.or.jp
詳細はこちらをご覧ください。



■イベントなど■

第35回外国人芸術作品展

中部地域在住の外国人による芸術作品(絵画、写真、工芸等)の展示を行います。

日時 11月3日(火)~11月8日(日) 10:00~19:00
※最終日11月8日(日)は15:00まで
場所 名古屋国際センター4階 第1~3展示室
費用 無料 **申込** 不要
問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

第2回 グローバルユースカフェ

若者が地域や地球の多様な課題に対する関わり方や、自身のキャリア形成について考え、交流する場、グローバルユースカフェ。

岐阜県垂井町を拠点に、日本とカンボジアをかご製作・販売で繋ぐ「moily(モイリー)」の池宮聖美さんをお迎えします。池宮さんがカンボジアに渡ったきっかけ、手仕事の魅力などをお話しいたします。
日時 11月12日(木) 18:00~20:00
場所 ウェブ会議ツール「Zoom」で実施。
対象 15歳~35歳の若者 **定員** 20人(申込先着)
申込 10月15日(木) 10:00~
ウェブサイト、メール、電話および来館にて受付
問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp
HP <https://www.nic-nagoya.or.jp>

ランチタイムに世界を学ぼう!(中国編)

平日のランチタイムにNICの外国人講師が、ライブラリーの図書を活用しながら母国を紹介します。

日時 11月25日(水) 12:00~13:00
場所 ウェブ会議ツール「Zoom」で実施。
定員 15人(申込先着) **費用** 無料
申込 10月28日(水) 10:00~

メールにて受付。申し込みの際にお名前、電話番号、メールアドレスを明記してください。

問い合わせ 広報情報課
☎052-581-0100 ✉info@nic-nagoya.or.jp

NIC国際交流ウォーキング

外国人と日本人が名古屋の歴史と文化を巡る国際交流の機会です。NIC Walking Guidesボランティアが案内します。今回のコースは、名古屋大学周辺です。定員、時間等はウェブサイトをご確認ください。(10月中旬ごろ掲載予定)

日時 11月28日(土)午後
場所 名城線名古屋大学駅
対象 外国人及び日本人
費用 無料
申込 10月24日(土) 10:00~
外国人:電話およびメールにて(申込先着)
日本人:メールにて抽選(11月7日締め切り)

問い合わせ 広報情報課
☎052-581-0100
✉nicwalking@nic-nagoya.or.jp

★その他のお知らせ★

**令和3年度名古屋国際センター
登録ボランティア募集**

国際交流、国際協力、多文化共生の各分野で活動する当センター登録ボランティアを募集します。登録条件・募集人数等の詳細は、ウェブサイトまたはチラシをご覧ください。

※ボランティアの種類によって説明会の日時が異なります
日時 ①12月11日(金) ②12月13日(日)
場所 ウェブ会議ツール「Zoom」または名古屋国際センター(会場はウェブサイトもしくはチラシ参照)
対象 登録説明会に参加できる方で、名古屋市または近郊在住の中学生以上の方
登録期間 2021年4月1日から1年間
申込 11月11日(水) 10:00~12月2日(水) 17:00
ウェブサイト、メール、電話および来館にて受付
問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5689
✉seminar-vol@nic-nagoya.or.jp

名古屋市在住外国人人口(国・地域別)
上位8か国(令和2年8月1日現在)

国・地域	人数
1位 中国	23,695
2位 韓国・朝鮮	15,992
3位 ベトナム	10,184
4位 フィリピン	9,445
5位 ネパール	6,469
6位 ブラジル	4,824
7位 アメリカ	1,383
8位 台湾	1,157
名古屋市在住外国人総人口	84,514
名古屋市総人口	2,329,712
名古屋市総人口における在住外国人総人口の割合	3.63%

400号にあたって

皆さまのおかげで、ニック・ニュースは400号を迎えることができました。1984年3月の創刊以来、国際交流・協力を携わるたくさんの方の団体や人をご紹介してきました。読者の皆さま、本誌に掲載させていただいた方、編集に携わった人々、本誌がつないでくれた人々との出会いは、NICの財産です。

今号の表紙は、400号を記念し、300号からこれまでの表紙をランダムに並べました。今から11年前の300号(2009年3月号)には、それまでに取り上げたテーマが年代別に並び、時代の流れと外国人を取り巻く環境の変化、地域の国際化の状況や課題を読み取ることができます。

10年、20年後、私たちの暮らす社会はどのように変わっているのでしょうか。「振り返られるような誌面を残したい!」そんな想いを込めながら、これからも担当者の「バトン」をしっかり握りしめ、500、600号へとつなげるよう精一杯誌面づくりに努めたいと思います。(浅)

※本誌のバックナンバーは、NICライブラリーでご覧になれます。



**出会う!つながる!世界を変える!
グローバルユースデー2021 参加団体募集**

プレゼン大会あり!交流タイムあり!先輩によるトークセッションあり!若者が主役となる「グローバルユースデー」の参加団体を募集します。詳しくはウェブサイト掲載の募集要項をご確認ください。

日時 2021年2月20日(土) 13:00~16:00(予定)
場所 ウェブ会議ツール「Zoom」で実施。
対象 下記①~③をいずれも満たす団体又はグループ
①グローバルな視野で、地球や地域の課題解決に向けて活動している東海地域の団体であること
②15歳~35歳の若者が活動の中心であること
③インターネット環境やデバイス設備が整っており、オンライン参加が可能であること
ex)学生団体、高校の部活動、大学のゼミやサークル、NGO/NPO、企業の社会貢献チーム等
※1団体につき1デバイス(=1画面)で参加をしていただきます。

定員 10団体(選考)
申込 10月6日(火) 10:00~11月27日(金) 17:00(必着)メール、郵送または来館にて応募用紙を提出してください(応募用紙はウェブサイト/QRコードからダウンロードできます)。



問い合わせ 交流協力課
☎052-581-5691 ✉koryu@nic-nagoya.or.jp

名古屋国際センターサポーター募集中!

NICの活動を支援していただくために、サポーター(賛助会員)を募集しています。皆さまのご協力をお待ちしています。

年会費	学生	1,500円
	個人	5,000円
	団体	50,000円

※会員期間:学生・個人(令和3年3月迄)、団体(入会月から1年間)

団体賛助会員 7・8月更新団体
(学)愛知学院、稲沢市役所、(株)第一ビルディング、(株)中京銀行、中京テレビ放送(株)、日本福祉大学 (50音順)

編集後記